

単元名 「What do you want?」(Let's Try! 2 Unit 7)
 授業者 T1:小松 弥生 教諭 T2:Dwayne Simms (ALT) T3:水田 幸繁 教諭

単元計画 (第4学年)

◆新学習指導要領 領域別目標 (2) 話すこと「やり取り」ウ

サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な単語や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

◆【CAN-DOリスト形式の学習到達目標 第4学年 話すこと【やり取り】】

自分や相手の好みなどについて、簡単な質問をしたり答えたりしている。

◆【単元ゴールとしての言語活動】

みんなと一緒に食べたいオリジナルピザを伝え合う。



【単元目標】

- 食材の言い方や、欲しいものを探ねたり求めたりする表現に慣れ親しむ。(知識及び技能)
- 欲しい食材などを探ねたり求めたりするとともに、考えたメニューを紹介し合う。(思考力、判断力、表現力等)
- 相手に配慮しながら、自分のオリジナルピザを紹介しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

【単元指導計画 (全5時間)】

時	学 習 活 動
1	◆単元ゴールを設定し、食材の言い方や、欲しいものを探ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
2	◆フルーツパフェの食材について、欲しいものを探ねたり答えたりして伝え合う。 ◆オリジナルフルーツパフェを紹介し合う。
3	◆オリジナルピザの食材について、欲しいものを探ねたり答えたりして伝え合う。 ◆オリジナルピザを紹介し合う。
4	◆友達に食材についてインタビューし、「みんなと食べたい!オリジナルピザ」を考える。 ◆「みんなと食べたい!オリジナルピザ」について伝え合う。
5 (本時)	◆相手に配慮しながら、「みんなと食べたい!オリジナルピザ」を伝え合う。 ① Omiya Talking Time ② 【Let's Chant】P27 "What do you want?" ③ 「Small Talk」(昨日のモデルを使って) ④ Today's Goal
	⑤ 【Activity1】「みんなと食べたい!オリジナルピザ」を伝え合う。 ⑥ 中間交流① 話し手と聞き手(質問の工夫)の立場で、友達の表現の良かったところを出し合い、表現を考える。 ⑦ 【Activity2】中間交流で出た友達の表現を意識して、参観者と伝え合う。 ⑧ 中間交流② 参観者とのやり取りをモデルとして、使いたい表現を共有する。 ⑨ 【Activity3】中間交流で出た表現や態度を活用して、参観者と伝え合う。 ⑩ 本時を振り返る。

模擬授業

参加者より ①本校及び自分の外国語授業実践の課題 ②本講座の学びで①の解決につながると思われること

①中間交流で「こんなことを英語で言いたい」という意見があまり出ないため、前後の言語活動に変化が見られない。

②「みんなと食べたい!オリジナルピザ」のように、児童が主体的に活動できるような単元ゴールを設定する。また、相手に伝えるだけでなく、その内容について児童同士が積極的に質問できるようにする。

①教員の英語に対する苦手意識。板書の工夫。ALTとのやり取り。

②既習の内容を板書に示す。(流れの分かる板書)。すぐにALTに教えてもらうのではなく、形や色などの既習を使って何とか相手に伝えたいという気持ちや伝えようとする姿を大切にしていける。子供のつばやきを大切に、全体に広めていくことで学級全体を深めていく。

単元構成のポイント

【児童の実態(課題)】

英語で自分や地域のことを伝える意欲は高いが、「英語が好き」と答えた児童は55%(最肯定)。自分の英語表現の正確性に不安を感じ、失敗を恐れる児童がいると考えられる。

【解決に向けた手立て】

「みんなと食べたい!オリジナルピザ」を伝え合う言語活動を設定することで、友達の良さや交流の楽しさに気付かせ、英語で伝え合えた達成感を持たせる。

- ・他教科等との関連を図る。
- ・中間交流で児童の表現の良さや工夫を価値付ける。

自己肯定感を高め、自信を持たせる

協議内容

【視点①】子供の言葉を拾い、くだけ、つなげているか

○対話を通して、子供に思考させ、表現を引き出していた。
○教師のコメント(褒め言葉)が子供の自信につながっている。
○本時でどう表現できたかだけでなく、低学年からくだけたことを続け、子供の気持ちや意欲を育てていくことが大切。
●折り返しをどうつけるか。どこまで粘って引き出し、どこで表現を教えるか。子供の表現したい気持ち(内容)と実際の英語力。
●色、形、におい、味等、既習でもっと多様な表現ができたのでは。
●教師と子供だけでなく、子供同士でくだけた場を増やすことも大切。

【視点②】相手に配慮したより良い表現の工夫を考えさせているか

○「みんなと食べたいピザ」と設定したことで、相手(友達)への配慮が生まれている。
○参観者との交流により、具材以外の「人」について表現が広がる。
●単元ゴールの相手は誰で、どんな配慮をさせたいのかを明確にしておく。
●デモンストレーションで子供に使わせたい表現を示し、板書で可視化してはどうか。



講師: 鳴門教育大学 中妻佳代 准教授より

・中間交流では、「既習を使う」「理由を言う」を押さえた発問にすると、子供達から出させたかった内容が出るのではない。積み重ねのある大宮小では「表現」を主として交流することができるが、一般的な学級では「態度」についても交流しておくことが大事である。

・中学年で「自分なりにできた」という達成感や成就感をたくさん経験させることが、高学年の知的な高まりへとつながっていく。「くだけ」ことを続けるのはとても大事だが、中学年で身に付けてほしい「態度」はしっかり押さえること。「非言語によるコミュニケーション」も大切にし、「どうにかして伝えようとする姿」を価値付けること。

・「発表」ではなく、「やり取り」にするのであれば、「I have a question.」と言って質問したり、「Comment, please.」と言って聞き手から感想をもらったりという、互いの話合いがあってもよいのではない。その後に中間交流をすれば、受けた質問にどう答えたらよいかということもみんなでも考えることができる。一人、ペア、グループで考えた後に全体で中間交流をするとよい。

・参観者と交流することで、「初めて会った人にも伝わった」という喜びや達成感を持たせることができる。参観者から「こんなところが良かった。」というコメントをもらい、褒めてもらう活動にする等、最後のActivityの内容を再考すること。

・学習指導案には、①授業者の思考の整理 ②参観者に授業者の意図を伝えるという2つの意味がある。デモンストレーションの流れが分かるように、スクリプトを入れること。



模擬授業の様子

①HRTとALTのやり取り(デモンストレーション)



②【Activity1】
※参加者は全員児童役になり、自作のピザを紹介



③【中間交流】



言葉を拾い、くだけ、つなぐ場面
 S1:「大盛り」とか、「山盛り」と言いたいけど…
 HRT: 何が大盛りなのかな?
 S1: トマトです。
 HRT: トマトがいっぱいってことかな? いっぱいって何て言ったっけ?
 S2: "many"かな…
 HRT: OK? 他にない?
 S3: "full"とか?
 ALT: "full" (満腹のジェスチャー)
 "a little" (少しを表すジェスチャー)
 "a lot" (たくさんを表すジェスチャー)
 Repeat after me. A lot.
 S全員: A lot.
 ALT: A lot.
 S全員: A lot.
 HRT: A lot tomato, OK?
 ALT: A lot of tomatos, OK!

④【Activity2】
※参加者は児童役と参観者役になり、ピザを紹介



教材の工夫



一瞬でカードの面がチェンジ。何をどの順番で伝えるか、子供の思考を促すツール。

